

「事業名：飯舘村環境放射線研修会」 2021年度補助事業の実績・成果

大阪大学 連携市町村：相馬郡飯舘村、双葉郡大熊町

連携市町村との協定締結日：平成29年8月8日 現地拠点：相馬郡飯舘村草野小学校(1階家庭科室)
：令和3年

事業のポイント

大阪大学を中心とした全国の大学の文系理系、学年、国籍の枠にとらわれない多様な背景を持った学生が浜通り地区を訪れる。そこでは、自らの手を動かし環境放射線を測定することで福島の実情を自身の体験を通じて理解し、さらに地元の方との意見交換によって震災時の様子やそこからの復興の過程を知り、放射線による直接的な影響から派生した人文社会的問題を認識する。そして学生間の議論の中から復興に対して自分たちが出来ることを考え見つけ、「豊かな想像力を持ち、能動的に創造力を働かせ、問題解決に当たることができる」人材の育成を行うことを目的としている。

今年度の活動実績

今年度の研修会では、学生は大阪大学をはじめ12の大学から集まり、88名ほど(事前講義+現地実習の両方の修了者)が参加した。浜通り地区での現地研修は、8月23日～28日までの6日間で行われ、グループを2つに分けて飯舘村と大熊町のそれぞれを活動の場とした。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため様々な見学や対話ができないなどの大きな変更を余儀なくされた。しかしながら、制限された環境下においても、野外環境での放射線測定などを通じて、参加学生らは福島県における放射線や放射性物質についての実態を肌で知ることができたと考える。地元の方々との交流も当初予定していた催しは開くことができなかったが、三春町福聚寺の住職の方や町長さんとの対話、そして双葉町の震災遺構伝承館での語り部ツアーなどを経験でき、事故当時の落胆や葛藤、そして時間が経ち未来を見据えた現在の考え方など、遠く離れた大阪などでは決して知ることができない、そこに住む方々の感情を知ることができ非常に意義深い時間となった。

今年度の成果

2021年度の特筆すべき成果の一つとしては、研修中に学生たち自らが学生サークル「はまでいず」を立ち上げたことである。学生たちは本研修会に参加しながら、福島県にこれからも継続に関わっていき復興に長期的に関わっていくためにはどのような道があるのだろうかと考えた結果、自分たちでその受け皿を作ってしまうのが最も適当であると即時に実行に移した。学生たちは、東京大学や福島大学の農業系学生サークルと既にコラボレーションをしており、飯舘村での農業体験やファームステイなどの活動を進めている(2022年1月現在)。教員が用意した研修会だけでなく、自分たちで受け皿や実践の場を作るなどの行動は、我々が目指している「豊かな創造力を持ち、幅広く知り能動的に考えられる」という人材育成目標を達成したと考える出来事であり、非常に感銘を受けた。

